

公益社団法人日本図書館協会
2019年度部会総会議事録

公共図書館部会

日時：2019年6月14日（金）

11:15～12:45

会場：日本図書館協会研修室

出席者数：構成員総数3,034（2019年6月13日現在）

出席 個人会員・施設等会員48、委任状出席者1,497、計1,545

1. 議長選出：本日6月14日開催の第1回幹事会で2019-2020年度公共図書館部会部長に五十嵐一彦氏（栃木県立図書館）が選出されており、公共図書館部会規程第4条第6項（以下「部会規程」という。）に基づき、五十嵐一彦氏が議長に就任した。
2. 総会の成立：事務局より、総会開始時における出席者48に加え、委任状出席者1,497、合計1,545の参加があり、部会構成員数の過半数1,518を超えていることが報告され、議長が総会の成立を宣言した。
3. 議事：
議事次第のうち、1）2018（平成30）年度事業報告案及び2018（平成30）年度決算報告案の報告を受けた。議事1）について、拍手で承認された。続いて2）2019（令和元）年度事業計画案及び2019（令和元）年度予算案の報告を受けた。議事2）について、拍手で承認された。

質疑

○現在、映画『ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス』が上映され、また「公共図書館プロジェクト」の検討がおこなわれている。部会はどのような関わりか。

・プロジェクトは2回傍聴した。ヒアリングの段階だったので、幹事に情報提供はしていない。今後成案が出てきた段階で幹事や公共図書館部会に情報提供することを検討する。映画は現在、東京上映のみなので情報提供していないが、日本図書館協会としては字幕作成の協力をしている。

○地方交付税の要望は、幹事会や日図協のニュースで事前に提供があったことか。

・幹事会に流し、都道府県立図書館にも情報提供した。強力にすすめたい。

○「自治体の総合計画等における図書館政策の位置づけ及び資料費・事業費の確保について」アンケート調査の計数処理の部分を県立と市町村立に分けることは可能か。

・考えたい。

議事3）2019-2020年度公共図書館部会幹事について

資料5に基づき、各幹事及び幹事候補が自己紹介を行い、幹事会では施設会員選出幹事13名と、個人会員選出幹事3名の選出を提案し、承認されたことが報告された。個人会員選

出幹事、安宅仁志氏、堀渡氏、水澤弘幸氏の3名の選出が拍手で承認された。

議事4) 2019-2020 部会長・副部会長について

2019-2020 年度の部会長は幹事会で選任され、本総会に報告され部会長の任についている。副部会長に幹事会で、西口禎二氏(大阪府立中央図書館)、福澤幸人氏(富山県立図書館)が選出されたことが報告され、総会で了承された。

○幹事や副部会長の選出について、手続きはどうなっているか。

・幹事会及び総会で承認を求めている。

議事5) 公共図書館部会推薦理事候補について

資料5、6により、理事長から推薦を依頼された理事候補を2月28日の幹事会で部会長と次期部会長候補により協議することとした。前部会長の中山勝文氏を選出することにし、幹事会でもそのことを確認したことが報告された。

議事6) 公共図書館部会選出の代議員候補については、部会規程第12条第1項「代議員候補者の推薦を行う場合、部会長は、各地区からの推薦を得て、幹事会の承認を経て、本法人の選挙管理委員会に報告する」とあり、資料6により幹事会で承認を得たことの報告があった。

4 報告事項:

○全国図書館大会三重大会と図書館基礎講座 in 九州(沖縄)について案内があった。

○森理事長の挨拶があった。

○全国規模のアンケートの分析については、調査に関心のある人を募って分析してはどうか。

・幹事会で協議したい。

○地方交付税要望の際に、非正規職員のことを留意いただきたい。

○日本図書館協会・文科省・国会図書館が図書館政策に前向きでない。ぜひ取り組んでいただきたい。また指定管理がうまくいっているのかどうかの調査にも取り組んでほしい。

○アメリカには図書館協会が作った「図書館の十二か条」の宣言などがあるが、公共図書館のあるべき姿・理想像を日本図書館協会又は公共図書館部会で作るべきとの意見があり、それに対して、ミッションを求めているのだと思うが、それはそれぞれの図書館が作るべきとの意見があった。

○児童の障害者サービスの状況が変わってきた。布の本が図書館蔵書になるように。

以上の意見交換ののち、報告事項を終了した。

以上をもって、総会を終了した。